# メレク ヤコヴ 米国出身の元ユダヤ教徒（前半）

:

明:

メレクはユダヤ教徒としての人生と宗教について、またユダヤ教ハシディック派からの 反について ります。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 男性

より: メレク ヤコヴ

日16 Jun 2014

集日 16 Jun 2014

私は生まれたときに、メレク ヤコヴというヘブライ の名前を与えられました。 在、依然として私は生まれた 所と同じニュ ヨ クの地域に住んでいます。私の家族はそれなりに宗教的でした。私たちは 土曜日にハシディック派の集会に行っていましたが、ユダヤ教ハシディック派において要求されていた しい戒律の全てを守っていた ではありませんでした。ハシディック派とは、一般的に「超正 派」として知られるユダヤ教の一派です。彼らがそう呼ばれているのは、彼らがハラ ハ （ユダヤ法）を 守し、ユダヤ教神秘主 （カバラ）に っているからです。彼らは たま道端で かける、 いス ツと帽子に身を包み、髭ともみあげを伸ばした奇 な格好をした人々です。

私たちはそんな 貌ではありませんでした。私の家族は安息日でも料理したり、　を使っていましたし、私自身、 にヤムルカ（ふちなし帽）をかぶったりはしませんでした。また、私は非ユダヤ教徒の学生や友人たちに まれた世俗的な 境で育ちましたし、 年に渡り、安息日に　したり、コ シェル食（ユダヤ教の食 律で された食べ物）でないものを食べたりしていたことに罪 感を抱いていました。

私は戒律の全てを守ってはいなかったものの、それが神が求めていた生き方だという い感 を持っていましたし、戒律を破るごとに神の御前において罪を犯していたのだということを感じていました。私の母は、私が幼少の からバアル シェム ト ブとして知られた有名なラビ エリエゼルの逸 や、ハッガ ダ （タルム ドの中のハラ ハ ではない部分）やト ラ の言い えを み かせてくれていました。

それらの言い えのすべては同一の 理的メッセ ジを持ち、私がユダヤ教徒のコミュニティ、つまりイスラエルを祖国として　することに役立ちました。言い えはいかにユダヤ教徒たちが 史を通して抑 されてきたことを示し、いかに神が最 まで彼らと共にあったかについて ります。ユダヤ教徒たちが かされて育つ物 は、ユダヤ教徒たちがそれを必要とするときには、常に奇 が彼らを救ったことを示します。ユダヤ教徒たちがその小さな可能性にも わらず、 史を通して生き延びてきたことは、それ自体が奇 であると なされています。

なぜ大半のユダヤ教徒たちが、イスラエルに してシオニストの立 を取るのかが知りたければ、ユダヤ教徒たちが幼少の からそれらの物 を吹き まれてきたことを知らなければなりません。シオニストたちが自分たちは何も いことはしていないかのように振舞うのはそのためです。ゴイム（非ユダヤ人）たちは皆、ユダヤ教徒への攻 の 会をうかがっている であると なされ、信用置けないとされます。ユダヤ教徒たちはお互いへの非常に い 束があり、自分たちを神の「 民」であると なします。私自身、 年に渡ってそう信じてきました。

私はユダヤ教徒としての い自 を持っていましたが、シナゴ グに土曜礼 に行くことは何よりも嫌でした。少年 代、父 から 理やりシナゴ グに れて行かれていたのを未だに えて

います。そこは恐ろしく退屈で、皆が い帽子と髭という格好の中、外国 で祈りを捧げていたのがとても奇妙に感じられました。それは れ しんだ世界から、突然 知らぬ外国に放り出されたような感 でした。私はそうあるべきなのだと思ってはいましたが、（私の　同 、）ハシディック派のライフスタイルを取り入れることはありませんでした。

私が13 になったとき、他のユダヤ教徒の少年たち同 、バル ミツワ という成人式が行われました。また、 朝テフィリン（ヘブライのお守り）を身に付け始めました。それを身に付けないことは不吉であり、 いことが起きるかもしれないから危 であると教えられました。初めてテフィリンを付けなかった日、なんと母の が盗 被害に会いました。そのことからも、私は きに渡ってそれを身に付け けました。

私のバル ミツワ　しばらくすると、家族はシナゴ グに通うのを止めてしまいました。家族は3　半もの礼　 に耐えられず、私がバル ミツワ さえ受けてしまえばもうそれでいいと思ったのです。その 、父は信者たちの一部と愚かな喧 になり、あらゆる礼 に行くのを止めてしまいました。そして、奇妙なことが起こりました。父は彼の友人から、イエスの受け入れを 得されたのです。父がキリスト教徒に改宗しても、母は彼とは 婚しませんでしたが、彼女はそれ以来、そのことに し 言の憎 を抱き けています。

10代前半だった私は、その から何か共感できるものを探し始めました。父の改宗は、私自身の信仰についても疑 を抱かせました。私は、「ユダヤ教とは 密にはどんなものなのか」「ユダヤ教とは文化なのか、国家なのか、それとも宗教なのか」「それが国家を指すのなら、ユダヤ教徒が2つの国家の市民であることはあり得るのか」「それが宗教であるのなら、なぜ礼 はヘブライ で唱えられているのか、またエレツ イスラエルの礼 や、『 方の 式』を行うのか」「それがただの文化であるなら、もし かがヘブライを使わず、ユダヤ教の　を辞めてしまえば、その人物はユダヤ教徒ではなくなってしまうのではないか」といった疑 を抱いていました。

もしも、ト ラ の戒律を守るのがユダヤ教徒であるというのなら、なぜモ ゼにト ラ が下されるよりも前の 代に生きていたアブラハムが最初のユダヤ教徒だと言われるのでしょうか?
ついでに言えば、ト ラ は彼をユダヤ教徒として言及すらしていません。ユダヤという

名称は、ヤコブの12子の一人、ユダに因んでいます。ユダヤ教徒は、ソロモンの 代のに、ユダ王国が 立されるまではユダヤ人とは呼ばれていませんでした。　的には、ユダヤ教徒の母を持つ者がユダヤ教徒であると言われています。それゆえ、たとえキリスト教や 神 を 践していても、ユダヤ教徒として なされるのです。私はどんどんとユダヤ教から れていきました。そこには うべき戒律やミツワ （善行）が多すぎました。これらの 礼の意 とは一体何なのかと私は い始めました。私にとって、それらのすべては人工的なものでした。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1467

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。